

地理学会ニュース 2025年度 第2号

法政大学地理学会 2025年10月15日発行

2025年度第1回例会（シンポジウム）のご案内

2025年度の第1回例会を以下の内容で開催します。事前申込の必要はありませんので、皆様、奮ってご参加ください。

- テーマ：カップと地域振興
- 日 程：2025年11月8日（土）
- 時 間：13：00～17：00（予定）
- 方 式：対面形式（オンライン配信は行いません）
- 場 所：法政大学市ヶ谷キャンパス 富士見ゲート棟4階 G402 教室
- 参加費：無料
- 申し込み：事前申し込み不要（直接会場にお越しください）
- 主 催：法政大学地理学会
- プログラム：
 - 講演1 伊藤達也（法政大学）「カップと地域振興－その可能性－」
 - 講演2 高橋寛英（兵庫県福崎町地域振興課）「柳田國男と妖怪の町おこし」
 - 講演3 木ノ下素信（大分県中津市市議会議員）「大分県中津市のカップ伝説」
- 概 要：「カップは本当にいるのか？」は気にしません。いようといまいとどっちでもいいです。「カップという存在が私たちの生活とどのような関わりを持っているのか？」。可能ならば「カップとの関わりの中で、そこに暮らす人たちがどうしたら幸せになれるのか？」を考えていくことが本シンポジウムの目的です。「なぜカップ？天狗じゃダメ？」。それも含めて一緒に考えてみませんか。

2025年度第2回例会（日帰り巡検）のご案内

2025年度の第2回例会を以下の内容で開催します。こちらは、学会ウェブサイトからの事前申込が必要です。皆様、奮ってご参加ください。申し込み等の詳細については学会ウェブサイト (<https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/>) をご覧ください。

- テーマ：東京の水の道
- 日 程：2025年11月29日（土）
- 方 式：対面形式
- 集合場所：東京都水道歴史館入口
- 集合時間：10：00
- 解散場所：新宿区立四谷地域センター
- 解散時間：16：30（予定）
- 参加費用：無料（交通費、昼食代などは各自で支払い）
- 定 員：20名（先着順）
- 申し込み：2025年11月21日（金）までに、当学会ウェブサイトの「学術大会・イベント」のページ (<https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/>) の巡検申込フォームよりお申し込みください。なお、お申し込みの際は、必ず添付ファイルが受け取れるメールアドレスを記載してください。
- 主な見学場所（予定）：東京都水道歴史館、淀橋、東京水道発祥の地（旧淀橋浄水場 蝶型弁）、東京都庁展望台、玉川上水跡（代々木緑道）、淀橋浄水場跡（正門）、みんなの泉（馬水槽）、新宿御苑インフォメーションセンター、玉川上水散歩道、四谷大木戸水道碑
- 概 要：私たちの暮らしに欠かせない水。開館30周年の東京都水道歴史館で東京の水道の歴史を学び、午後から新宿区内に残された水道の痕跡を歩いて訪ねます。誰もが利用し、

よく知る新宿ですが、現在、西口を中心に大規模な再開発が行われています。地上部に何もない西口の様子を含め、新宿をじっくり観察できればと思います。

(集会委員会)

<地理学研究の窓 第4回>
オールラウンドな視点で読み解く
地球環境の過去から現在
(福與 直人)

はじめに

2025年4月より助教として着任いたしました、福與（ふくよ）直人と申します。本年度は自然環境論や地質・岩石学実習等を担当しております。この度「地理学研究の窓」執筆の機会をいただきました。自己紹介を兼ねまして、これまでの私の研究内容を簡単に紹介させていただきます。

私は地球科学専攻出身であり厳密には地理学プロパーの研究者とはいえないかもしれません。しかし、これまで太平洋の島嶼域を中心にした、自然地理学的研究に取り組む中で、地球化学、地球物理学、考古学といった多様な分野の知見を柔軟に取り入れる学際的なアプローチをしてきました。

海水準変動と人類史：トンガ王国での学際的研究

南太平洋のトンガ王国では、約2500年前の海水準変動が湾の生態系を変化させ、人類の移住にまで影響を与えた可能性が考古学的に指摘されていました。この謎を解明するため、私たちは三つの異なる手法を統合しました。まず、貝殻化石の放射性炭素（ ^{14}C ）年代を測定し、次に氷河性地殻均衡（GIA）モデル（氷床・海水の重みによる地殻の沈降や隆起を計算する手法）で過去の海水準をシミュレーション、さらにLiDARデータで古海岸線を精密に復元しました。

その結果、従来考えられてきた氷床融解の影響だけでなく、地元の地殻変動が海水準に与える影響の重要性が明らかになりました。さらに、貝化石の化学分析から、海水準の低下が湾の閉鎖性を高め、海水交換を減少させたことを突き止めました。このように、地球化学・地球物理・地理学の視点を融合させることで、考古学が提起した問いに対し、具体的な環境変動の姿を定量的に描き出すことができました（Fukuyo et al., 2020, *QSR*）。

ミクロな磁場から探る：鍾乳石と津波堆積物の可能性

鍾乳石は、過去の地磁気の記録を連続的に保存する優れた媒体です。私は、走査型SQUID顕微鏡（SSM）という高感度・高解像度の測定技術を鍾乳石に応用し、サブミリ単位での磁場変動を捉えることに成功しました。これにより、これまで世界でも殆ど例が無かった鍾乳石の層ごとの微細な磁性鉱物の違いを特定し、その原因が過去の人類活動や火山活動に起因する土壌の変化である可能性を示しました（Fukuyo et al., 2021, *EPS*）。

この古地磁気・岩石磁気学的なアプローチは、他の分野にも応用できます。例えば、北海道・春採湖の湖底堆積物です。この堆積物には、千島・カムチャッカ海溝で発生した巨大地震による津波の痕跡が残されています。平常時と津波時で堆積物の磁気的特性が大きく異なることを見出しており、磁性鉱物の種類や構造を詳しく調べることで、過去の巨大津波の履歴をより鮮明に復元できると期待しています。

年代測定のフロンティア：狛犬からハワイ沖のサンゴ礁まで

正確な「ものさし」である年代測定は、過去を科学的に理解する上で不可欠です。私の探究心は、分野の垣根を越え、高精度な年代測定技術の確立と応用にも向かっています。

ユニークな例としては、秋田県赤神神社に所蔵される木造狛犬・獅子像の研究があります。造形が自由で編年が困難とされてきた木造彫刻に対し、 ^{14}C 年代測定と年輪年代学を組み合わせる手法を適用しました。その結果、これらの像が6～11世紀に制作された可能性を突き止め、神社の創建期に迫る貴重な資料であることを科学的に示しました。この成果は、美術史研究に新たな定量的視点を提供するものです（Fukuyo et al., 2019, *Radiocarbon*）。

さらに、国際深海科学掘削計画（IODP）389次航海に参加し、ハワイ沖の海底に存在する過去50万年間の記録を持つ沈水サンゴ礁のコア試料の研究を進めています。ここに古地磁気層序学を適用することで、従来の放射年代測定を補強し、地球磁場の逆転や変動（地磁気エクスカージョン）といったイベントを基準とした、より堅牢な年代モデルの構築を目指しています。

今後の展望：地下水、気候変動、そして未来への

貢献

これまでの研究で培った知見と技術を基盤に、今後はさらに新たな研究領域へと挑戦していきたいと考えています。

一つは、島嶼域における水資源問題への貢献です。研究フィールドであるトンガ王国や奄美大島で、地下水の ^{14}C 濃度をモニタリングし、その動態を解明するプロジェクトを開始しました。 ^{14}C 濃度は、塩分や水温といった従来の指標では捉えきれない地下水の年齢や流れを明らかにする強力なトレーサーとなります。この研究を通じて、気候変動下における持続可能な水資源管理に貢献することを目指しています。

もう一つは、地球規模の気候変動メカニズムの解明です。IODP で得られたハワイ沖のサンゴ礁コアは、過去の海水準変動を高解像度で記録しています。この試料の岩石磁気学的な特性を詳細に分析することで、気候変動と海洋環境の変化がどのように連動していたのか、その関連性を解き明かすための重要な手がかりが得られると信じています。

また、あらゆる古環境研究の基盤となる ^{14}C 年代測定の高精度化にも、引き続き取り組んでいきます。特に、地域ごとの海水中の ^{14}C 年代のズレ（海洋リザーバー効果）を精密に評価するため、博物館に眠る戦前の年代既知の貝殻資料を用いた研究に着手しました。

さいごに

私の研究は、時に地質学、時に物理学、またある時は考古学や美術史といった、様々な分野の境界を横断します。しかし、その根底には、過去から現在の環境と人間の関係性を空間的・時間的な広がりの中で理解したいという思いがあり、地理学的であると言えるかもしれません。地理学科 Web サイトに「オールラウンドな学問『地理学』」という言葉は、まさに私の研究スタイルそのものです。このようなオールラウンドさを体現して教育・研究を進めることができると考えています。

会計委員会より

会費を滞納されている方にお知らせ致します。本会は3年以上滞納されたら会誌等の発送を停止しております。また滞納期間が5年に達しますと、自動的に除籍する対応を取っております。会費納入状況につきましては、学会から送付される郵便

物のラベルシールにてお知らせしておりますのでご確認ください。会員各位におかれましては、住所変更等で学会からの連絡が届かず、結果として会費滞納状態になっている方もいらっしゃると思います。住所変更等がありましたら、かならず学会にお知らせいただきますようお願い致します。また、法政大学文学部地理学科通学課程以外の学生会員は、卒業後は継続して一般会員となります。卒業された学生会員はメール等でお知らせ下さい。メールアドレスの登録を推進しております。学会ウェブサイトより学会メールを利用してお知らせください。

会員動向（2025.6.5～2025.9.10 まで。敬称略、申し込み順）

【入会】（2025.6.5～2025.9.10 まで）

- ・一般2名：蓑島 誠（北海道）、浅子湧士（東京・院生（筑波大））
- ・学生1名：石澤麻里・通教学生（北海道）

【退会】

- ・学生1名：成田敏美（岩手、年度末退会）

法政大学地理学会「地理学研究奨励金」制度について

学会では、創立 70 周年を記念し「地理学研究奨励金」を設けています。

- 1 審査対象になる論文は、本学学生会員および大学院生が投稿し「法政地理」に掲載された論文です。
- 2 学士論文、修士論文をベースにした場合、学位論文を提出した翌年度までの「法政地理」に投稿・掲載された論文が対象です。
- 3 来年3月に発行予定の「法政地理 58 号」に投稿・掲載される論文が対象になります。
- 4 論文が審査対象になるためには、地理学研究奨励金授与選考委員会に応募が必要です。
- 5 「法政地理 58 号」に論文が掲載される予定の論説、研究ノートの執筆者は、ぜひ審査にご応募ください。

問い合わせ、連絡先
法政大学地理学会 副会長

地理学研究奨励金授与選考委員会委員長
大塚一雄 kotsuka415@gmail.com

<2025～2026 年度・法政大学地理学会役員>

会長：中村圭三

副会長：大塚一雄・加藤美雄

監査：木村成彦・小山伸樹

常任委員長：前杢英明

常任委員：小原丈明・米家志乃布・齋藤 圭・佐々
木 達・山口隆子

庶務委員会：小原丈明（委員長）

会計委員会：佐々木 達（委員長）・塩谷恭正

集会委員会：山口隆子（委員長）・松本貴子・山中
緑・鈴木沙和

編集委員会：米家志乃布（委員長）・中田輝男・福
與直人・前畑明美

評議員：伊藤達也（埼玉）・宇津川喬子（奈良）・

片岡義晴（千葉）・狩野真規（東京）・小寺浩二
（東京）・小原丈明（東京）・米家志乃布（京都）・
近藤章夫（神奈川）・齋藤 圭（大分）・塩谷恭
正（千葉）・千葉 晃（東京）・中山秀晃（東京）・
南 春英（東京）・羽田麻美（沖縄）・浜田弘明
（神奈川）・前畑明美（東京）・前杢英明（東京）・
山口隆子（東京）・吉岡美紀（東京）・吉原圭佑
（東京）

2025 年 10 月 15 日発行

編集 法政大学地理学会庶務委員会

発行 法政大学地理学会常任委員会

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

法政大学文学部地理学教室内

Fax 03-3264-9459

E-mail hoseichiri@chiri.info

Web <https://hoseichiri.ws.hosei.ac.jp/>

郵便振替 00170-9-167442
